

樟 蔭 学 園 報

Vol. 183

2021 Spring

くすのき

Kusunoki



全国大会で初の総合優勝に輝き、大阪府の吉村知事を表敬訪問した高等学校ダンス部

CONTENTS

● 巻頭特集

コロナ禍における学園の取り組み

一変した学園生活 樟蔭生の安全を最優先し、学びを継続

1

学びを止めないための各校の取り組み コロナ禍で私たちが感じたこと

3

● こもれびの窓 — 「英語落語」を出発点に独自の世界を追求したい

佐保田 映子さん

5

● NEWS — くすのき祭&袴コンテスト ほか

7

● CLUB NAVI — 大学 造形美術部

13

● 2019(令和元)年度決算概要報告

15

● FORUM — 「新任教員紹介」ほか

17

● しょういん川柳

私のイチ押し! 黒川 麻実 先生

オススメレシピ 監修:くすのき健康栄養センター

19



はばたけ、知性。

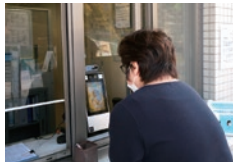
コロナ禍における 学園の取り組み

一変した学園生活 樟蔭生の安全を最優先し、学びを継続

学 園

●入場規制や体調管理で感染予防を徹底

学内への入退場を分散しています。正門は中学生、高校生、北門は大学生、大学院生が利用することになっています。生徒、学生、教職員は、「体調管理表」で毎日の健康状態を自己管理し、感染予防を徹底しています。各門には体温探知カメラを設置。さらにデジタルサイネージを設置し、新型コロナウイルス感染予防対策の注意喚起を行っています。



デジタルサイネージと検温の様子



手指消毒用ボトルスタンドを設置

●保護者会の支援で学内の各所に 除菌アルコールなどを設置

学園の保護者会から手指消毒用ボトルスタンド、除菌シート、除菌ボックスが寄贈されました。学内の各所で生徒、学生の感染予防のために活用しています。また、エレベーターの押ボタンには除菌・抗ウイルスコーティングを施しました。

中学校・高等学校・幼稚園

●6月1日から本格的に再開

中学校、高等学校は4月13日(月)から休校、5月11日(月)からオンラインによる課題学習が始まりました。その間、生徒の心身の健康観察や生活習慣、学習状況を把握するため登校日を設定し、最少人数で登校しました。6月1日(月)に入學式を行い、翌日から本格的に授業を再開しました。久しぶりに友達に会えた生徒たちは、生き生きとした表情を見せていました。



幼児はさまざまな行事を通じてすくすくと成長しています。

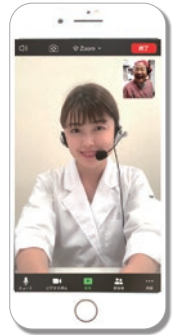
幼稚園は6月1日(月)に再開しました。園児はマスクを着用して毎日元気に登校しています。給食の時間はパーテーションを立てて食べています。コロナ禍においても、園児はさまざまな行事を通じてすくすくと成長しています。

新型コロナウイルスの感染拡大により、当たり前だった学園の日常も大きく変わりました。学園は昨年2月に「樟蔭学園危機管理対策本部」を設置し、社会的な状況を考慮しながら樟蔭生の安全を最優先する取り組みを続けてきました。大学の学位授与式や入学式、同窓会総会、ホームカミングデーなど主な行事を中止したほか、学内への立ち入りを禁止し、幼稚園・中学校・高等学校・大学の休園・休校とする措置を取りました。春期は中学校・高等学校・大学で遠隔授業を取り入れて学びを継続しましたが、秋期は対面授業を再開。学内はにぎわいを取り戻しつつあります。今号ではコロナ禍の学園の取り組みを紹介します。

大学・大学院

●遠隔ワンポイント相談で健康をサポート

健康栄養学部とくすのき健康栄養センターは、不要不急の外出自粛やテレワーク勤務などで、食生活と健康面が不安な人を対象に、期間限定で「遠隔ワンポイント栄養相談」を行いました。経験豊富な管理栄養士が、電話やZoomを使って正しい食事のアドバイスをを行い、健康的な生活が送れるようサポートしました。



●秋期から対面授業を再開 「ウィズコロナ」の学生生活スタート



春期はほとんどの授業を遠隔授業としました。遠隔授業は、クラウド型教育支援システム manaba を使い事前に収録した授業を視聴する①オンデマンドオフタイム型・manaba でリアルタイムに学ぶ②オンデマンドオンタイム型・Zoom を活用した双方向の授業③同時双方向型の3種類。各科目の内容を考えて授業方法を設定しました。大学内の施設設備を利用する必要がある実験実習・実技などは特別に対面授業にしました。

秋期はキャンパスへの入構制限を行わず、対面授業を再開。主に実験実習科目が対面授業となり、それ以外の科目は、科目の性質、受講者数、学年などを考慮し、対面授業、遠隔授業(オンデマンドオフタイム型)のいずれかで実施しています。

●新入生のためのキャンパスツアーを実施

入学以来、大学に通えなかった1年生を対象に、学内を巡るキャンパスツアーを企画しました。北尾悟学長と副学長らがアテンド役を務めました。キャンパスツアーの後は学生同士の交流会もあり、1年生がキャンパスライフを円滑にスタートできるようにとサポートしました。



キャンパスの施設を巡り説明を聞く学生

日付	樟蔭学園の対応	月	社会の動き
		1月	中国・武漢で原因不明の肺炎。厚生労働省が注意喚起 WHOが新型コロナウイルスを確認 日本国内で初めて感染確認 WHOが「国際的な緊急事態」を宣言
20日	樟蔭学園危機管理対策本部設置	2月	乗客の感染が確認されたクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」が横浜港に入港。14日間の船上隔離開始 国内初の死者確認、感染経路不明の事例相次ぐ 首相が全国の学校に臨時休校を要請
25日	新型コロナウイルス感染拡大に関する注意喚起		
27日	【大学】主催行事の中止、または延期の決定 【大学】2019年度学位授与式(3月14日)の中止決定		
28日	学内立入禁止を通知(大学休校:3月4日～15日、 中学校・高等学校休校:3月2日～18日、幼稚園休園:3月2日～17日)	3月	WHOが世界の流行状況を「パンデミック」認定 東京五輪・パラリンピック1年程度の延期を決定
3日	【高等学校】卒業生のみで卒業式を挙行		
4日	【大学】学内立入禁止を延長(3月4日～29日)、課外活動、学内外での全活動の中止を通知		
18日	【中学校】卒業生のみで卒業式を挙行	4月	世界の感染者100万人突破 7都府県に「緊急事態宣言」 世界の死者10万人を超える 国内の感染者1万人突破 「緊急事態宣言」全国に拡大。13都道府県は「特定警戒都道府県」に
27日	【大学】4月13日からの春期授業開始を延期し、全学休校を通知(4月25日まで)		
28日	【大学】春期授業開始を4月27日に設定、自宅待機期間を設定(3月30日～4月19日)、学内立入禁止期間を延長(4月19日まで)		
7日	【大学】春期授業開始を延期(5月11日)、学内立入禁止期間を延長(5月31日まで)、自宅待機期間を設定(5月6日まで)、遠隔授業の実施を決定(5月11日～30日) 【中学校・高等学校】入学式、始業式の延期を通知、入構禁止(4月13日～5月6日)	5月	「緊急事態宣言」5月31日まで延長 「緊急事態宣言」39県で解除。8都道府県は継続 夏の全国高校野球、戦後初の中止決定 「緊急事態宣言」関西は解除、首都圏と北海道は継続
30日	【幼稚園】臨時休園延長の通知(5月7日～8日)、入園式延期の通知		
1日	遠隔授業等実施に伴う「学生・生徒の情報環境整備への緊急支援」を実施(情報機器取得費、および通信環境整備費の一部として、一律30,000円を支援)		
4日	【中学校・高等学校】臨時休校延長の通知(5月31日まで) 【幼稚園】臨時休園延長の通知(5月11日～31日)		
8日	【大学】春期の全授業を遠隔授業での実施を通知(5月11日～8月8日)		
9日	【中学校・高等学校】登校日・入学式等の通知 (登校日:5月16日～19日に午前・午後の2部制で実施、入学式:6月1日、始業式:6月2日)		
16日	【中学校・高等学校】2回目の登校日の通知 (登校日:5月23日～26日に午前・午後の2部制で実施)		
23日	【中学校・高等学校】分散登校の通知 (6月3日～9日・10日～16日に午前・午後の2部制で実施)		
29日	【幼稚園】始業式・入園式の通知(始業式:6月1日・2日、入園式:6月3日) 【大学】政府の緊急事態宣言の区域解除、大阪府の緊急事態措置の解除に伴う学園の対応について通知 (8月8日まで遠隔授業実施の通知、実験実習科目を8月31日～9月24日の期間での授業実施として設定)		
15日	【大学】実験・実習のある一部の授業を再開 【大学】新型コロナウイルス感染症により家計が急変した学生の経済的支援「緊急給付奨学金」の採用人数を拡充	6月	世界の感染者が24時間で最多の13万6000人 都道府県をまたぐ移動の自粛要請、全国で緩和 世界の感染者1000万人突破
13日	【大学】新型コロナウイルス感染症第2波に備え、再度注意喚起	7月	「Go Toトラベル」キャンペーン始まる WHO「パンデミックは加速し続けている」 国内の1日の感染者1000人を超える
31日	【大学】新型コロナウイルス感染症拡大防止における本学の活動指標の導入(新型コロナウイルスの感染状況に照らした制限レベルに基づく活動指標を作成し導入)		
		8月	世界の感染者2000万人突破
14日	【大学】秋期授業方針について決定 (9月25日～2021年2月6日までの秋期授業期間は、「対面授業」と「遠隔授業(オンデマンド型オフタイム)」の実施)	9月	
24日	【大学】秋期授業開始にあたっての注意喚起		

※各校の取り組みは2020年10月にまとめました



パーテーションを設置し給食を食べる園児



授業の様子

学びを止めないための 各校の取り組み

先生からの声

新型コロナウイルスの影響により、これまでとは全く異なる対応を余儀なくされた教育現場。求められる「社会的な責任」と「感染拡大を防ぐこと」の間で、樟蔭生の学びを止めないためにどのような対応を行ったのかを先生方に聞きました。

4月、学長指示のもと、教育開発機構に「遠隔授業部会」を設けて授業の実施体制についての検討を重ね、5月12日に延期した授業開始に何とか間に合わせることができました。これまでに経験したことのない状況にあっても、学びを止めないことを最優先に考え、これまでと同様の教育内

容を提供するために準備を進めました。教職員間で情報共有を図ることを心掛けながら、ICTツールのマニュアル作成や教員向けZoomの導入など、授業の提供に必要な環境を短時間に整えましたが、不十分なことも多く、先生方お一人お一人の工夫と努力に大きく頼っていたのが実態で

経験したことのない状況に 遠隔授業体制を準備

●大阪樟蔭女子大学
教育開発機構長
白川哲郎 副学長



あったとも思います。遠隔授業を軌道に乗せる一方、緊急事態宣言の解除を受けて、資格取得に欠かせない実習・実験等の科目については対面授業を行うことを決めました。対面授業の再開に際しては、感染防止策を徹底するとともに、情報処理室の開放など大学で遠隔授業を受けられるようにする対策も講じました。春期の遠隔授業を終えて、オンデマンド型では学生のタイミングで課題に取り組むことができる、同時双方向型では工夫次第で通

常授業と変わらない内容を提供できるというメリットが見えてきました。その一方、学生の反応が見えない、課題が多くなり過ぎるといったデメリットも分かりました。そうした振り返りをもとに、教員のICT技術の向上はもちろん、情報処理室の整備・強化、学生も教員も疲弊しない工夫などソフト・ハード両面の改善策を模索しながら秋期を進めています。今後は蓄積したノウハウを活用し、本学にふさわしい学修環境を構築していきたいと思っています。



「つながり」を大事にした 遠隔授業

●樟蔭中学校・高等学校
川浪隆之 教頭補佐

休校当初は教科書や課題プリントを郵送していましたが、休校期間の延長が決まった時点で、オンラインで課題提出と採点・チェックが可能な「Google Classroom」を全ての授業に導入しました。オンライン学習を始めるにあたり大事にしたことは、生徒と先生、生徒と学校がつながる雰囲気作りです。学び続けるためには「つながり」が不可欠ですから、関係性を深めることを意識していました。

授業で使う動画などの教材作りは本当に大変でした。休校期間中、先生方は毎日のようにリモート研修会に自宅から集まり、遠隔授業の進め方やICTツールの効果的な活用法を話し合いました。そこで得たスキルを授業で実践し、各授業の均衡化と質の向上に取り組みしました。生徒に

とって遠隔授業は、全員が最前列で授業を受けることができます。さらに、生徒が自分のタイミングで課題を進めることができ、より深い学びにつながるという利点があることも分かりました。提出物をチェックしていると、リアルタイムで生徒とコミュニケーションを取ることができる機会もありました。「遅くまでご苦労様、がんばってください」と書き込むと、「ありがとうございます」と返ってきます。生徒とつながる度に、顔が浮かび、私自身のやりがいにもなりました。

遠隔授業を通して、生徒が身に付けなければならないスキルのイメージも大きく変わったと感じています。使えて当たり前の教具としてICTツールの効果的な利用を進めていきたいと思っています。



子どもたちのために できることを考えて

●大阪樟蔭女子大学附属幼稚園
楠田智美 主任

子どもは周囲の大人たちの不安をすごく敏感に察知します。こんな時、保育者が普段と変わらない行動を続けることは、子どもたちに向き合う点でも、とても大切です。そのために子どもたちの小さな変化を見逃さないようにして、安心できるような声掛けをしたり、言葉や表情で愛情をいっぱい伝えるようにしたりしました。

また、入園式、デイキャンプ、運動会など、子どもたちが楽しみにしている行事は中止するのではなく、どうすれば開催できるかを考えました。規模を小さくすることで、いつも以上にアットホームな雰囲気になり、一人ひとりとじっくりと向き合えた点は良かったと思っています。

日々の保育ではとりわけ感染予防に心を砕いています。保育

室やおもちゃの消毒、マスクの徹底はもちろん、子ども同士のソーシャルディスタンスの確保には特に気を配っています。子どもたちはスキンシップを取りたがるので、密にならないような保育・遊びを考え、昼食やおやつを食べる時にパーテーションを立てるなど、制限がある中で最大限、子どもたちにとって良いこと、できることを提供できるよう心掛けました。

休園明けの子どもたちは本当にうれしそうで、体いっぱい喜びを表現していました。そんな姿を目にして、改めて幼稚園の存在意義を感じました。

終息が見えない日々が続きますが、子どもたちや保護者の思いに寄り添えるように、状況をしっかり和捉え対応していきたいと思っています。



不安の中で就職活動

●●●●●さん
(健康栄養学科4年生)

就職できるのか、管理栄養士の国家試験は予定通り行われるのか。そんな不安に包まれた毎日でした。コツコツと国家試験の勉強をしながら、就職活動をしました。特にグループディスカッションは苦勞しましたが、声を大きく出すことを意識して乗り切りました。最終面接は対面となり、アクリル板越しに面接官とお互いの表情を見ながら、自分の思いを伝えることができました。管理栄養士の試験に合格し、学んできたことを社会で生かせるような仕事ができればと思っています。



ようやく 大学生の実感

●●●●●さん
(心理学科1年生)

入学したものの学校に行けないため、友だちもなくて心細く、履修がちゃんとできているかなど不安だらけの学生生活が始まりました。課題の締め切りや授業のスケジュールを作り、確認しながら遠隔授業に取り組みました。会ったことのない先生にメールで質問するのは緊張しました。再開後、ようやく思い描いていた学生生活を送れるようになり、友だちや先生と話せるのがとてもうれしいです。楽しみながら深く勉強し、見つけた疑問について自分なりの見解を出せるようになっていきたいです。そして、やってみたいと思ったことは後回しにせず、挑戦したいと思っています。



将来を真剣に 考える機会に

●●●●●さん
(高校2年生)

毎日、勉強時間を作ることと、運動不足にならないよう気を配りました。運動不足解消のために縄跳びを始めたところ、いつの間にか家族全員でするのが日課になりました。また、自分の将来について真剣に考える良い機会にもなりました。曖昧だった進路が明確になり、高校の国語教師を目指して大学へ進学することに決めました。これまで以上に勉強に励んでいます。学校が再開し、私には直接受ける対面授業の方が理解しやすいと感じました。そして、何より友だちとたわいもない話や部活ができることがうれしいです。



学校と同じ 生活リズムを崩さない

●●●●●さん
(中学2年生)

ステイホーム期間中でも学校がある日と同じ時間に起床、就寝をして、生活リズムを乱さないよう努めました。初めての遠隔授業は、課題の提出がうまくいかないことがあり最初は戸惑いましたが、今ではすっかり使いこなせるようになりました。また、自分のタイミングで授業動画を視聴できたので良かったです。学校が再開し友だちと会えたことはとてもうれしいです。しかし、昼食時間は前を向いて食事をしているので、早く友だちと輪になっておしゃべりしながら食事ができれば良いと思います。

コロナ禍で 感じたこと

私たちが

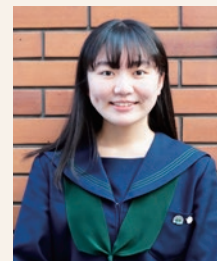
休校や外出自粛という非日常の日々を樟蔭生はどんな気持ちで過ごしたのか。そして、学校が再開した後、「withコロナ」の学校生活をどう感じているのか。生徒や学生の声を紹介します。



家族との時間を 大事に

●●●●●さん
(国際英語学科3年生)

地元・新潟から遠隔授業を受けるのは不思議な気分でした。久しぶりに実家で過ごし、家族の大切さを感じました。その一方で、画面越しに友人の顔を見るたびに、会いたい気持ちが募りました。そんな中で毎日ひたすら課題をこなしました。楽しみにしていた「英語落語」の授業が対面で学べず残念でした。再開後、友人と会って話せることや、先生に直接就職の相談をできることがうれしいです。できなかった期間があったからこそ喜びが倍増したように感じました。これから始まる就職活動は、コロナ禍で大変だと思いますが、自分の夢を叶えられるように努力したいです。



当たり前の生活の 大切さを知った

●●●●●さん
(高校3年生)

突然友だちに会えなくなり、当たり前の生活がどれほど大切だったか思い知らされました。新学年は遠隔授業で始まったので、教科担当の先生がどのような先生か分からず少し不安でした。休校中に誕生日を迎え、友だちがテレビ電話で祝ってくれたのがとてもうれしかったです。再開後は今しかできないことに挑戦して、自治会執行部会長として「リモート若葉祭」を作り上げることができました。卒業が近づき、残りの学校生活の1日1日を大切にしながら、友だちや先生方と多く多くの思い出を作りたいです。



ストレスを溜めないよう 工夫して過ごす

●●●●●さん
(中学3年生)

休校を喜んだのは最初だけで、徐々に早く学校に行きたいと思うようになりました。遠隔授業は、繰り返し授業を受けられたので復習につながりました。ただ、パソコンやタブレットを見る時間が長くなり、とても目が疲れました。休校中は「制限された生活でも楽しむ。ストレスを溜めない」を目標に過ごしました。普段、なかなかできなかった裁縫やバレエに没頭することが多かったのです。どんな時でも、今やるべきことを考えながら、好きなことを楽しむ生活をしたいと思いました。

※このページの記事は2020年10月に取材しました

「英語落語」を出発点に 独自の世界を追求したい



落語家 笑福亭 縁(しょうふくてい ゆかり)

佐保田 映子さん

2014年3月
大阪樟蔭女子大学 学芸学部 国際英語学科卒業



国際英語学科卒業生の佐保田映子さんは、上方落語家・笑福亭縁(高座名)で活躍されています。樟蔭で英語落語を学んだ後、2014年に笑福亭松枝師匠に入門。「もっと面白く、オリジナリティ溢れる(はなしか)噺家になりたい」と日々、独自の話芸を模索しています。

◆「英語落語」を学びたくて樟蔭へ

佐保田さんが落語の世界に目覚めたのは、中学生の時。ラジオの演芸番組を聴いて、落語に興味をもったそうです。「ラジオの演芸番組視聴者プレゼントに当たり、母と落語会に行ってみると、もう、面白いのなんの!こんなに心が引かれる世界があったとは。ラジオとはまた違った生の落語の面白さを体験しました」と佐保田さん。どんどん落語の魅力に引き込まれていき、自分でも落語をやりたいと思うようになったそうです。

英語のツアーガイドの資格を持つ母の影響で、子供の頃から英語に親しんでいたこともあり、「英語で落語ができたらかっこいいなあ」という願望を抱くようになっていきました。高校3年生の時、大阪樟蔭女子大学に日本で唯一、プロの落語家から英語落語を学ぶ授業があると知り、迷わず受験した佐保田さん。「作家・田辺聖子さんの母校なら、きっと文芸についてしっかり学ぶことができると思いました」と続けます。

◆先生や友人に恵まれた学生時代

国際英語学科では、「英語落語」の授業で学んだ成果を発表する場として毎年2月に、「英語落語発表会」を開催しています。英語落語を演じるにあたって佐保田さんは、日本語との言葉のニュアンスの違いや、オチをどうするかなどで悩みました。英語と落語を猛勉強し、発表会では練習の成果を披露することができました。「在学中、発表会だけでなく、講師の一人である桂あさ吉師匠のご好意で『桂あさ吉英語落語独演会』の高座にも上らせていただきました。そこで『樟ノ家さほ』という名前で英語落語を演じたことは、今となればとても貴重な体験をさせていただいたと思います。その時に恩師の藤澤良行先生が見に来て下さりました。緊張しましたが、とても嬉しかったことを覚えています」と振り返ります。

卒業論文は「海外の人に日本の落語は通じるか?」というテーマで、全文を英語で書き上げました。この苦しい時期に最後まで一緒に頑張った友人は、今でも親友です。「入門後はファン第1号になってくれて、よく高座を見に来てくれます」と笑顔を見せます。



さほだ えいて
大阪府出身。笑福亭縁の高座名で、古典、新作落語、英語落語を演じる落語家。(上方落語協会、松竹芸能所属) 2014年4月に笑福亭松枝師匠に入門。持ちネタは「平林」「子ほめ」など20種類以上。好きなことは相撲鑑賞。



「英語落語発表会」の様子
⑥英語落語を披露する佐保田さん
⑦桂かい枝師、桂あさ吉師、桂三輝師と一緒に記念撮影の様子



◆自分で決めた道に進む

大学で英語落語を学ぶうちに、ますます落語家になりたい気持ちが強くなったという佐保田さん。「4年生の時、希望する職種をキャリアセンターに書面で提出する機会がありました。私はもちろん“落語家”と書いて提出しました。すると、キャリアセンターから書類が戻されてしまいました。きっと冗談だと思われたのでしょうか。藤澤先生にも将来のことを心配して『本気ですか?』と聞かれたほどです。『本気です!』と答えると、先生が半ばあきれておられたのをよく覚えています。

それでも、佐保田さんは夢を追い続けます。自分で決めた道を進もうと、笑福亭松枝師匠の門を叩きました。「松枝師匠は落語のうまさはもちろん、高座と客席の一体感がすごかった。この人の元で修行したいと直感的に決断し、“一か八かだ”とばかりに入門を志願しました。すると、師匠から『親御さんを連れてきて』と言われ、親とお願いに行くと入門の許可が出ました。憧れが現実になったこの日のことは、今でも鮮明に覚えています」と話します。

◆プロとしての修行の毎日

内弟子になってからの3年間は、師匠のお宅の手伝いに始まり、落語会への鞆持ち、楽屋でのお茶汲みまで、さまざまな仕事をしながら、全身で落語を吸収する修行の毎日でした。「芸名の笑福亭縁は、お客さん、師匠、恩師、友人などの縁を大切にするようにと名付けていただきました」と声をはずませます。稽古場では、弟子は師匠と向き合って正座し、師匠の芸を見て、真似をしながら覚えていくのが習わしです。「覚えることが苦手だったので、師匠は私専用の台本を作ってくださるなど、温かく見守って下さいました」。そんな佐保田さんのことを、松枝師匠は「素直で芯のしっかりした子」と評し、「新作の英語落語など新しいことにチャレンジして、自分にしかできないものを身に付けてほしい」と期待を寄せています。

◆落語の世界に新風を

落語の世界は、女性落語家には厳しい業界です。「女性だからといって甘えたらいかんよ」と厳しいことを言われたこともあるそうです。「女性ならではの強みもあると思っています。古典落語でも、子供や丁稚さんを今までと違う味で演じられる可能性があるし、新作なら、女性と男性を現代の視点から語れると思います」と熱を込めて話します。

持ちネタは20種類ほどに増え、やりがいも感じていますが、実力が評価される厳しい世界に身を置き、修行する日々はまだ始まったばかり。「笑福亭縁の落語をまた聞きたい、と思ってもらえるような噺家になれるよう頑張ります」と目を輝かせていました。

最後に「夢は諦めずに追いかけてほしい。そして早め早めに、動いてほしいですね。ダメだったらまたやり直したら良いだけですから、失敗を恐れずに挑戦してほしいと思います」と、樟蔭生に言葉を贈ってくれました。



佐保田さん(左)と笑福亭松枝師匠(右)

「英語落語発表会」について

生きた英語運用能力を身に付け、さらには日本の伝統文化への関心を深めることを目指して、2007年度より国際英語学科で開講。同学科の藤澤良行教授の指導のもと、3、4年生を対象に「英語落語」の実演を学びます。落語の指導に落語家の桂かい枝師(本学客員教授)、桂あさ吉師を講師として招き、豊かな表現力を磨きながら、英語での落語や小咄を稽古して成果を発表します。

学 園

2019年度卒業生955人が巣立ち、2020年度新入生1047人が入学

2020年3月、955人(幼稚園39人、中学校72人、高等学校282人、大学552人、大学院10人)が学園を巣立ちました。
そして4月、1047人(幼稚園42人、中学校70人、高等学校230人、大学695人、大学院10人)が入学しました。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、大学、大学院の卒業式と入学式を行うことができませんでしたが、卒業生、新入生ともに新たな気持ちで夢に向かって邁進していくことを期待しています。

大学・大学院

樟蔭美科学研究所を4月に開設

大学は、4月1日(水)に樟蔭美科学研究所を開設しました。研究所は、大学のグランドデザイン「美(知性・情勢・品性)を通じて社会に貢献する」を主軸に、美しさに関する先進的かつ国際的な研究を行っていきます。特に心身に関する研究、健康、栄養、食育、医療に関する研究、言葉の表現、身体表現に関する研究、人材育成、教育に関する研究、社会、生活(環境)、装い、人間関係に関する研究に力を入れ、地域の経済・社会、雇用、文化の発展などへの貢献を目指します。



2019年度 学生表彰

学業や課外活動等において顕著な成績を収め、他の学生の範となった学生に対し、その功績を讃えました。学業優秀者表彰では森平蔵賞が10人に、学業奨励賞が67人に贈られ、課外活動等表彰では学長賞が5団体と、個人3人に贈られました。 ※ ()内は2019年度の年生を記載

学業優秀者表彰

学業において研鑽に励み、他の学生の範となった個人を表彰します。

■ 森平蔵賞 (2020年3月卒業生) 在学中の学業成績が評価

◎●● ●●(大学院・臨床心理学)	◎●● ●●(心理)
◎●● ●●(大学院・人間栄養学)	◎●● ●●(ライフプランニング)
◎●● ●●(大学院・化粧ファッション学)	◎●● ●●(化粧ファッション)
◎●● ●●(国文)	◎●● ●●(児童教育)
◎●● ●●●●●●(国際英語)	◎●● ●●●●●●(健康栄養)

■ 学業奨励賞 2019年度中の学業成績が評価

国文	●● ●●(1)	●● ●●(2)	●● ●●(2)
国際英語	●● ●●(1)	●● ●●(3)	●● ●●(4)
心理	●● ●●●●(1)	●● ●●(1)	●● ●●(2)
	●● ●●●●(2)	●● ●●(3)	●● ●●(3)
	●● ●●●●(4)	●● ●●(4)	
ライフプランニング	●● ●●(1)	●● ●●(1)	●● ●●(2)
	●● ●●(2)	●● ●●(3)	●● ●●●●(3)
	●● ●●(4)		
化粧ファッション/被服学	●● ●●(4)		
化粧ファッション/ファッション学	●● ●●●●(1)	●● ●●(2)	●● ●●(3)
化粧ファッション/化粧学	●● ●●●●(1)	●● ●●●●(1)	●● ●●(2)
化粧学・化粧文化	●● ●●●●(3)	●● ●●●●(4)	
化粧ファッション/化粧学・美容	●● ●●●●(1)	●● ●●●●(2)	●● ●●(3)
	●● ●●(4)		
児童教育	●● ●●(1)	●● ●●●●(1)	●● ●●(1)
	●● ●●(2)	●● ●●●●(2)	●● ●●(2)
	●● ●●(3)	●● ●●●●(3)	●● ●●(3)
	●● ●●(4)	●● ●●●●(4)	●● ●●(4)
健康栄養/管理	●● ●●●●(1)	●● ●●●●(1)	●● ●●●●(1)
	●● ●●●●(2)	●● ●●●●(2)	●● ●●(2)
	●● ●●●●(3)	●● ●●●●(3)	●● ●●(3)
	●● ●●●●(4)	●● ●●●●(4)	●● ●●(4)
健康栄養/食物	●● ●●●●(1)	●● ●●●●(2)	●● ●●●●(3)
	●● ●●●●(4)		

各種団体による表彰

(2020年3月卒業生)

- 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟
- 一般社団法人日本衣料管理協会(1級)
- 美容師養成施設(大阪府知事)
- 一般社団法人全国保育士養成協議会
- 一般社団法人全国栄養士養成施設協会
- 公益社団法人日本フードスペシャリスト協会

- (心理)
- (化粧ファッション/被服学)
- (化粧ファッション/化粧学・美容)
- (児童教育)
- (健康栄養/管理)
- (健康栄養/食物)

課外活動等表彰

課外活動において優秀な成績を収めた個人または団体を表彰します。

■ 学長賞 個人

- ●●●(ライフプランニング4年生)
- 【理由】数多くの学外連携プロジェクトに積極的かつ中心メンバーとして参加しメディアに掲載されるなど本学の名誉を高めました。
- (化粧ファッション3年生)
- 【理由】JR駅ホームにおいて人命を救助し、その勇気ある行動に対し東近江警察署長より感謝状を授与され本学の名誉を高めました。
- ●●●(国際英語3年生)
- 【理由】2019年6月に大阪で行われたG20サミットにおいて学生通訳ボランティアとして活躍し、大阪府知事より感謝状を授与され本学の名誉を高めました。

■ 学長賞 団体(代表者)

- グリムプロジェクト2019 ●● ●●●(児童教育3年生)
- 【理由】包括連携協定先である東大阪市・香芝市・門真市・和歌山県かつらぎ町で子育て支援を行い課外活動の充実と振興に貢献しました。
- キャンドルナイト ●● ●●●(健康栄養3年生)
- 【理由】「1000000人のキャンドルナイト」への参加や門真市環境政策課の依頼により「かどま七夕キャンドルナイト2019」で活動し課外活動の充実と振興に貢献しました。
- グリーンティアー ●● ●●●(健康栄養3年生)
- 【理由】門真市で「環境学習プログラム」として「エコクッキング」の企画を実施し課外活動の充実と地域住民に貢献しました。
- 東大阪市ナイトミュージアムプロジェクト ●● ●●●(化粧ファッション3年生)
- 【理由】東大阪市文化国際課より依頼を受けて「ナイトミュージアム」でLEDランタンを使用した光のオブジェ作品展示とワークショップを行い課外活動の充実と振興に貢献しました。
- 東大阪市文化創造館ラグビードレス制作プロジェクト ●● ●●●(化粧ファッション3年生)
- 【理由】東大阪市より文化創造館のオープニング支援として依頼を受けラグビードレスの制作を行い課外活動の充実と振興に貢献しました。

「くすのき祭」と「袴コンテスト」をオンラインで開催



「第70回くすのき祭」を10月24日(土)、オンラインで開催しました。今年は「Rainbow～色々な人とのつながり～」をテーマに、吹奏楽、ダンス、書道などのクラブや同好会が日ごろの活動の成果を披露したほか、くすのき祭実行委員会主催のユニークな企画「リアル間違い探し」や吉本興業の芸人によるお笑いライブを楽しみました。オンラインならではの工夫を凝らしたプログラムは好評でした。

また、毎年くすのき祭と同時開催する「袴コンテスト」も、くすのき祭実行委員の「伝統のコンテストを新たな形に発展・継承していきたい」という思いから、11月29日(日)にオンラインで開催しました。今回は、特別審査員と事前登録した一般の方による当日票に加え、特設サイトでのテーマ投稿の閲覧数ランキング、AIチャットの立ち上がり件数ランキングの総合で優勝者を決定しました。

出場者は創立当時から受け継がれる深緑色の伝統の袴に身を包み、

袴姿での立ち居振る舞いや、作文などで内面の豊かさをアピールしました。その結果、ミス樟蔭は●●●●●さん(健康栄養学科3年生)、準ミスは▲▲▲▲▲さん(国文学科3年生)に決定しました。

くすのき祭実行委員は「今年は新型コロナウイルスの影響で開催は難しいと思っていましたが、伝統の袴コンテストを守りたいという思いから初めてオンラインで開催することにしました。オンラインという新しい形で開催できたことで、多くの人に樟蔭伝統の袴を知ってもらえる機会になったと思います」と話しました。



伝統の袴で作文を読む▲▲さん(左)と●●さん

『ジョゼと虎と魚たち』原作の
田辺聖子さんの世界を知る 講演会・読書会

昨年末に公開されたアニメ映画『ジョゼと虎と魚たち』の原作者として話題になった本学卒業生の田辺聖子さんの同名の作品を取り上げたミニ講演と読書会が、2021年1月20日(水)に東大阪市立

永和図書館で行われました。前半のミニ講演では、田辺聖子文学館館長の中周子教授(国文学科)によって、短編小説の名手であった田辺さんの創作方法についての解説と、国文学科の近現代ゼミの学生たちによる作品研究の成果発表が行われました。後半の読書会では、作品の背景となった当時の社会や大阪弁の効果など、学生と一般参加者の方々が、さまざまな読後感を語り合う楽しく有意義な時間となりました。会場には、田辺聖子文学館の協力で、作品の自筆原稿や特製の豆本、フランスや韓国での翻訳本が展示され、来場者は熱心に見入っていました。

人を引き付ける女性を育成
笑いのプロに学ぶ授業

豊かな情操と高いコミュニケーション能力を備えた魅力的な女性を目指して、「笑い」を学ぶ授業「笑いは人をつなぐ」を春期に開講しました。落語家の桂かい枝客員教授プロデュースの本講義は、本学の教員だけでなく、狂言師、放送作家、落語作家らが講師を務めました。学生たちは笑いが心身に与える影響や漫才のネタ作りの秘訣などを多角的に学び、その集大成として、動画による小咄の創作にも挑戦しました。かい枝客員教授は「若い人たちの発想の豊かさ、表現の自由さに驚かされた」と学生を評価。受講した心理学科の●●●●さん(2年生)は「小咄の創作は初めてでした。笑いは人生のプラスアルファだと思うようになりました」と笑顔を見せました。担当の小森道彦教授は「コロナで遠隔授業になったが、学んだことは、今後の生活にも役立てられるはず」と話しています。



放送作家の米井敬人氏と桂かい枝客員教授

「酢」を使ったノンアルコールカクテルのレシピを考案

ライフプランニング学科の学生が、ノンアルコールカクテルのレシピを考えました。挑戦したのは、お酒が好きな●●●●さんとお酒が飲めない▲▲▲さん。授業の一環として、企業やバーテンダー、料理家と連携して、3種類のカクテル「承和(そが)色ヴィネード」「フェアリー・パール」「レッドアラーム」を完成させました。学生は、食の流行やビジネスについての学びを生かし、食材の特徴や組み合わせや食感を考慮したほか、ネーミングやインスタ映えするような見た目の鮮やかさにもこだわりました。アルコールの代わりに酢を使い、本物のカクテルのようなおいしさ・美しさに仕上がっています。2人は「食べ物の好みが違う2人だからこそ、お互いが納得できるまで試行錯誤を繰り返しました」と声を揃えます。9月～11月、京阪神のバーや飲食店で提供されました。



学生がレシピを考えたカクテル(左から)「承和色ヴィネード」「フェアリー・パール」「レッドアラーム」



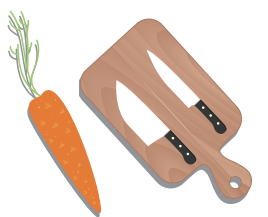
●●●●さん(左)と▲▲▲さん

地域貢献に一役 フレイル予防レシピを考案

管理栄養士・栄養士を目指す健康栄養学科の学生10人が、高齢者の心身の活力低下「フレイル」を予防するためのレシピを考案しました。コロナ禍で外出自粛が続くと、フレイルのリスクが高まる可能性があることを学んだ学生たちは「今、私たちにできること」を考え、地域の高齢者に役立ててもらおうと予防レシピを作りました。学生たちは自宅で試作を繰り返し、オンラインで意見交換しながら「豚肉とたっぷり野菜のレンチン蒸し」「サバのトマトカレー煮」「ツナ缶とキノコのチーズオムレツ」など10種類を完成させました。栄養価が高く、簡単に作れるのが特徴となっています。レシピ作りに参加した●●●●●さん(4年)は「単身の高齢男性でも簡単に作れるよう工夫しました。飽きずにおいしく食べられるようなレシピを目指しました」と話します。レシピは大学のホームページでも公開しています。



完成したレシピはどれもタンパク質が豊富



自宅でレシピを試作する学生たち

「健康と美容」をテーマにした新感覚の漬物を開発

健康栄養学科の学生18人が、京漬物の老舗大安と「健康と美容」をテーマにした漬物を開発しました。大学のプロジェクト型インターンシップの一環で、学生たちは市場調査や試作を繰り返し、約1年かけて新食感の漬物3種類を作り上げました。高齢者の健康を考え、ゴボウと大豆を組み合わせた「ごんぼまめ」はパリパリした食感にこだわりました。長いもなどの食材をサラダ感覚で食べる「からふるぶらす」は若年層に好評です。漬物が苦手な人向けに開発した「きざみピクルス」はゴボウやキュウリの漬物を味噌に混ぜ、パンやクラッカーにつけたり、野菜や肉料理のディップソースにも使えるようにしました。学生たちは「チーム一丸となり、商品を完成させられたことがうれしかったです」「社会に出て苦難があっても、今回の成功体験を忘れず、今後もさまざまなことに挑戦していきたいです」と話しています。(株)大安の各店とインターネット通販などで販売しています。



「からふるぶらす」と「ごんぼまめ」(各486円)



店頭でPRする学生たち



3種類の「きざみピクルス」(各540円)

中学校・高等学校

演技や演奏を動画配信「リモート若葉祭」を開催

今年の若葉祭は、「リモート若葉祭」として10月2日(金)に開催しました。多くの学校行事が中止になる中、若葉祭も8月末に中止が決まっていたましたが、企画・運営を担う自治会執行部の生徒たちが「全生徒が楽しみにしている若葉祭。コロナ禍だからこそできる若葉祭を実現したい」と熱望し、リモート開催にこぎつけました。

当日は、体育館に運営本部を置いて生徒が司会役を務め、事前に録画した各クラブの演技や演奏の映像を各教室のテレビに配信しました。飽きず楽しんでもらおうとクラス対抗ビンゴゲームや、ユニークなショートムービーを入れるなど趣向を凝らした内容にしました。最大の見せ場である3年生のダンス競技「青春の躍動」はライブで配信。この日のために作り上げたダンスはどのクラスも完成度が高く、画面越しに大きな拍手が送られました。

高校自治会執行部会長の●●●●さん(3年)は「今年にしかできないことを考えました。準備は大変でしたが、記憶に残る若葉祭になったと思います」と話し、中学自治会執行部会長の▲▲▲さん(3年)は「全てが手探りでした。大変さの中にある楽しさや喜びを知ることができました」と達成感に溢れた笑顔を見せていました。



教室で配信された映像を視聴する様子



台湾の曙光女子高級中学から心温まる贈り物

10月に台湾の曙光女子高級中学から中学校・高等学校にマスクが届きました。台湾が官民一体となって製造する「マスクナショナルチーム」の台湾製マスク1000枚とともに、校長からコロナ収束と交流再開を願った心温まるメッセージが添えられていました。

曙光女子高級中学とは、2005年に交流が始まり2015年から姉妹校に。グローバル教育の一環として、台湾交流旅行や交換留学、スカイプを活用した交流が続けています。感染拡大の影響を受け、例年のような交流はできませんでしたが、12月18日(金)にオンライン会議システム「Zoom」を使って大阪と台湾を結び、お礼の会を開きました。両校合わせて60人の生徒が参加し、最初に本校から「ありがとうございます」と感謝の言葉、次にお互いのコロナ禍の学校生活を伝え合いました。日本語での会話が弾み、話し足りないほどでした。生徒たちは「コロナが収束したら、また行き来して交流を深めたい」と期待を込めていました。



創立以来初めて 夏の制服で入学式

4月8日(水)から延期していた中学校・高等学校の入学式を6月1日(月)に行いました。創立以来、初めて夏服での入学式となりました。白い制服に身を包んで式に臨んだ新入生の顔には緊張と希望が入り交じっていました。新入生代表のあいさつは、●●●●さんが「やっと高校生の気持ちになれました。部活と勉強を両立させたいです」と、これからの学校生活に意欲を見せました。

式は密を避けるため、中学校の保護者は参加人数を制限し、高等学校の保護者には動画をライブで配信したほか、会場の100年会館(体育館)は、扉を開け、座席の間隔を広く開ける対策を取りました。この日の新入生たちの様子はテレビ大阪をはじめ多くのメディアに取り上げられました。

